

2022年10月2日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第65巻第25号(通算3307号)  
教会設立 1959年6月14日

しゅうほう  
**週報**

教会標語

かみさま ひと とち  
神様がすべての人と共におられる  
ことを証ししていく教会



〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

主任担任教師・牛田 匡 牧師

担任教師・水谷 憲 牧師

隠退教師・小林 達夫 牧師

ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ 5:5)

せかいせいさんびれいはい せいれいこうりんせつ だい しゅうじつれいはい  
**世界聖餐日礼拝 (聖霊降臨節 第18主日礼拝)**

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そう もく とう ちよさくけんしやうめつ  
前 奏 (黙 禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん へん せつ  
招きの詞 詩編 96編 1-3節

さんび か ばん せつ さんびかへんしゅういんかい  
賛美歌 21-209番「めさめよ、こころよ(1-3節)(©讚美歌編集委員会)

せい し しょ ふくいんしよ しょう せつ  
聖 書 マルコによる福音書 14章 10-21節

いの ばん すく しゅ せつ さんびかかいていいんかい  
お 祈り 賛美歌 21-481番「救いの主イエスの」(1, 2, 4節)(©讚美歌改訂委員会)

メッセージ 「愛する裏切り者」 水谷 憲 牧師

さんびか ばん きやうだんさんびかいいんかい  
賛美歌 21-72番「まごころもて」(©教団讚美歌委員会)

ユーカーリスト せい せつ  
聖 餐 水谷 憲 牧師

きやうどう いの へいわ  
共同のお祈りと、平和のあいさつ

さんびか ばん ちよさくけんしやうめつ  
賛美歌 524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

こうどくぶん しゅ いの  
交読文による「主の祈り」

さ ぎげもの  
献 げ 物 (\*)

は けん ばん かみ めぐ う せつ  
派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゅく ふく みづたに けん ぼくし  
祝 福 水谷 憲 牧師

こう そう ばん ちよさくけんしやうめつ  
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©著作権消滅)

ほう こく ページ さんしやう  
報 告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\* 「献げ物 (献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた さき  
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 96 編 1-3 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>1</sup>新しい歌を主に歌え。

全地よ、主に向かって歌え。

<sup>2</sup>主に歌い、その名をたたえ

日ごとに救いの良い知らせを告げよ。

<sup>3</sup>国々に、主の栄光を

すべての民にその奇しき業わざを語り伝えよ。

聖書 マルコによる福音書 14 章 10-21 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>10</sup>十二人の一人イスカリオテのユダは、イエスを引き渡そうとして、祭司長たちのところへ出かけて行った。<sup>11</sup>彼らはそれを聞いて喜び、金を与える約束をした。そこでユダは、どうすれば折よくイエスを引き渡せるかと狙っていた。

<sup>12</sup>除酵祭じょこうさいの第一日、すなわち過越すぎこしの小羊こひつじを屠ほふる日、弟子たちがイエスに、「過越すぎこしの食事をなさるのに、どこへ行って用意いたしましょうか」と言った。<sup>13</sup>そこで、イエスは次のように言って、二人の弟子を使いに出された。「都へ行きなさい。すると、水がめを運んでいる男に出会う。その人に付いて行きなさい。<sup>14</sup>そして、その人が入って行く家の主人にこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越すぎこしの食事をする<sup>a</sup>宿屋はどこか」と言っています。』<sup>15</sup>すると、席のきちんと整った二階の広間を見せてくれるから、そこに私たちのために用意をしなさい。」

<sup>16</sup>弟子たちは出かけて都に行ってみると、イエスの言われたとおりだったので、過越すぎこしの食事を準備した。<sup>17</sup>夕方になると、イエスは十二人と一緒にそこへ行かれた。<sup>18</sup>一同が席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「よく言っておく。あなたがたのうちの一人で、私と一緒に食事をしている者が、私を<sup>b</sup>裏切ろうとしている。」<sup>19</sup>弟子たちは心を痛めて、「まさか私のことでは」と代わる代わる言い始めた。<sup>20</sup>イエスは言われた。「十二人のうちの一人で、私と一緒に鉢はちに食べ物を浸ひたしている者だ。<sup>21</sup>人の子は、聖書に書いてあるとおりに去って行く。だが、人の子を<sup>c</sup>裏切る者に災いあれ。生まれなかったほうが、その者のためによかった。」

(脚注 a：別訳「客間」、b：別訳「引き渡そうとしている」、  
c：別訳「引き渡す者」)

《先週のメッセージより》2022年9月25日

メッセージ「思い出に残るもの」より

牛田匡牧師

聖書 マルコによる福音書 14章 1-9節

イエス様が「ベタニアで香油を注がれる」という今回のお話は、4つの福音書に書かれているお話です。細かい違いはありますが、共通点としては①女性がイエス様に香油を注いだ。②食事の場面だった。③男性が女性を非難した。④イエス様が女性の行為を支持し肯定した。という4点があります。この女性は最後にイエス様から「あなたのことは、世界中でいつまでも覚えられよう」と言われています。にもかかわらず、福音書にはこの女性の名前は記されず、覚えられることもありませんでした。さらに元々はイエス様の頭よりも上に立ち、頭に香油を注いだはずの女性（マルコ、マタイ）が、次にはイエス様の足元にひざまずき、香油を足に注いで自分の髪の毛で拭うという奴隷の姿になり（ヨハネ、ルカ）、さらには「罪深い女性」として描かれるまでに至りました（ルカ）。それは恐らく、人々の口から口へと伝えられる中で付け加えられて来た女性に対する差別意識や偏見に基づいた尾びれや背びれ、改変や編集によるのだろうと思われま

す。しかし、イエス様の生き様は、そもそもそれらの身分や性別、富や職業、宗教的なケガレなど、人と人とを区別し、分断する様々な障壁、バリアをことごとく打ち破るものでした。そもそも宗教的にケガレていると考えられていた仲間の家に行き、そこで食事を共にするということが、当時のユダヤ社会では非常識、あり得ないことでした。さらにその食事の席には、男性たちだけではなく、通常は一緒に食事をしない女性たちも同席しており、一人の女性がイエス様の頭の上に立って、その頭に香油を注ぎました。イエス様の周りには、それほどフラットで、オープンな関係があったのだろうと想像することができます。

私たちは皆、自覚していないだけで、それぞれに色眼鏡をかけて生活しています。そのために自分に都合の良い言葉しか耳に入らず、自分に都合の良い出来事しか、記憶に残っていないのではないのでしょうか。しかし、多くの人たちと関わり合いながら、日々の命を生かされている私たちです。思わず心に留まるものとは、どのようなものなのでしょうか。また本当に「思い出に残るもの」とは何でしょうか。そしてそこにはどんな色眼鏡がかかっているのでしょうか。貧富の格差や、思想の違い、立場の違いなど、分断と対立がますます深まっている現代社会の中で、それらの分断と対立を取り除こうとされたイエス様の思い出、その言葉とふるまいを改めて心に留めながら、私たちは、この一週間もイエス様と共に歩んでいきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 9月25日 聖霊降臨節 第17主日礼拝

主日礼拝出席 大人4名 子ども2名 中継動画再生数 6回  
 献金 大人4,210円 子ども200円 感謝

礼拝後に、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行い、165個を作って、いこい食堂にお届けして、四角公園にて皆様にお渡しすることができました。どうもありがとうございました。またお米の献品も感謝でした。

◎次週 2022年10月9日(日) 神学校日(聖霊降臨節 第19主日礼拝)

招きの詞 詩編 43編 5節

聖書 創世記 32章 23-33節

メッセージ 「もうダメだ、では終わらない」 牛田匡牧師

賛美歌 新生73番(©JASRAC)、21-453番(©JASRAC)、21-471番(©P.D.)

礼拝は、インターネットで中継配信いたします。

◎お知らせ

- ・新型コロナウイルス感染症の流行が続いています。ご自身の感染予防のためにも、他人に感染させないためにも、教会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。
- ・10月3日(月)に予定されていた河内地区有志教会牧師会は、11月7日(月)に延期になりました。
- ・10月6日(木)18時から20時にかけて、北海道クリスチャンセンターにて「生と性の豊かさセミナー2022」が開催されます(主催:日本基督教団北海教区性差別問題担当委員会)。オンライン(ZOOM)での参加も可能です。講師は渡邊さゆりさん(マイノリティ宣教センター共同主事、駒込平和教会牧師)でテーマは「キリスト教女性の脱学習に向けて～依存から共存へ～」です。参加費は無料(任意の献金は歓迎)です。オンラインで参加希望の方は、明日3日までに、下記までお申し込みください。

[zeffirino.26.aug.71@outlook.jp](mailto:zeffirino.26.aug.71@outlook.jp)

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
10/9	牛田牧師	(神学校日)教会を考える会
10/16	岡嶋伝道師	聖書を読む会?
10/23	牛田牧師	収穫感謝礼拝・おにぎり支援
10/30	岡嶋伝道師	誕生者祝福式

生と性の豊かさセミナー 2022

**渡邊さゆりさん講演会**

**「キリスト教女性の脱学習に向けて」**

**～依存から共存へ～**



**2022年**  
**10月6日(木)**  
**18時～20時**

\*場所:北海道クリスチャンセンター  
 (札幌市北区北7西6)  
 \*参加費:無料(セミナー開催のための献金は歓迎です。)  
 \*オンラインでの参加も可能です。  
 (オンラインをご希望の場合は10/3までお申し込みをお願いします。)

**☆プロフィール☆**  
 渡邊さゆり(わたなべ さゆり):関西学院大学神学部神学研究科博士課程後期課程単位取得退学。旧約聖書学 専攻。神戸西伝道所、曾根キリスト教会にて教会、現在、マイノリティ宣教センター共同主事。日本バプテリスト同盟 駒込平和教会牧師。アジアの文脈から、批判的フェミニスト視座から聖書テキストの読み直し、女たちのエンパワメントに参与したいと願っています。「普天閣ゲート前でコスプレを歌う歌う連帯する戸塚平和コスプレ行動」代表。アットゥミヤンマー支援共同代表。

**主な著作:**共著『キリスト教の教師 聖書と現場から』新教出版 2008年/共著『女・生きる—「女生神学塾」運動—』キリスト教女性センター かんよう出版 2013年/『聖書の中の彼女たち』『福音と世界』巻頭メッセージ連載 2010.1-12月号 新教出版 2010年/『女たちの哀歌』『福音と世界』特集 新教出版社 2016年3月号/『生き残るための神学—批判的フェミニスト神学の聖書解釈について』『福音と世界』 特集 新教出版社 2019年1月号/『福音と世界』『祈りという非力な抵抗について』2021年6月号/共著『新版・教会暦による説教集「イースターへの旅路 レントからイースターへ」』キリスト新聞社 2021年/訳著『ニューセンチュリーバイブル注解 哀歌』日本キリスト教団出版局 2021年12月

**講師からひとこと**

「この度、みなさんと一緒に聖書をどう読むか、また信仰実践の中で私たちが積み上げてきてしまった経験について振り返り、話し合えることを楽しみにしています。この出会いを通じて、「ああ、よかったなあ」「これからもこんなふうに進んでいこう」という気持ちになれたら嬉しいなと考えています。」



**\*オンラインお申込み\***  
[zeffirino.26.aug.71@outlook.jp](mailto:zeffirino.26.aug.71@outlook.jp) (永田)

**\*お問い合わせ先\***  
 011-681-8217 (清水)

\*献金振込先は郵便振替02730-7-8339 日本基督教団北海教区会計(「性差別問題活動献金」と明記してください。)

**主催:日本基督教団北海教区性差別問題担当委員会**